

大島寿太郎

おおしま・ひさたろう

喜多流能楽師

経歴

生: 明治4年(1871年)1月17日、福山生まれ

没: 昭和4年(1929年)9月21日、享年59歳

—	—	西町下(しも)小学校卒業
明治18年(1885年)9月5日	14歳	広島県福山中学校(誠之館)入学
明治20年(1887年)9月28日	16歳	広島県尋常師範学校に合格
明治24年(1891年)6月	20歳	広島県尋常師範学校卒業
明治24年(1891年)	20歳	松永尋常小学校・福山高等小学校訓導
明治25年(1892年)	21歳	八幡社神納にて「翁付竹生島」を舞う
明治27年(1894年)夏以降	23歳	上京して喜多六平太師の指導を受ける
明治42年(1909年)4月	38歳	吉津・奈良津村と本庄・木ノ庄村の四カ村組合立樹徳尋常小学校訓導兼校長
明治44年(1911年)9月	40歳	教職を辞して家芸に専念
明治44年(1911年)10月2日	40歳	父七太郎師逝去
大正2年(1913年)12月	42歳	新馬場東に本格的舞台が竣工
大正6年(1917年)4月25日	46歳	亡父の7回忌に沼名前神社(ぬまくま・じんじゃ)能舞台で創作能「鞆浦」を初演

生い立ちと学業、業績

大島寿太郎師は、明治4年(1871年)1月17日、大島七太郎師の長男として福山で誕生した。

西町下(しも)小学校を経て、明治18年(1885年)9月5日、広島県福山中学校(誠之館)に入学。

在学2年後の明治20年(1887年)9月28日、広島県尋常師範学校に合格した。

明治24年(1891年)6月同校を卒業した。

その後、明治24年(1891年)松永尋常小学校・福山高等小学校訓導を経て、明治42年(1909年)4月、吉津・奈良津村と本庄・木ノ庄村の四カ村組合立樹徳尋常小学校訓導兼校長に任ぜられた。

同校では、翌明治43年(1910年)高等科を併置するとともに校舎の新築に着手、明治43年(1910年)11月4日落成式を挙行、見事にその任を果たした大島校長の名声は噴々たるものがあつた。

他方、幼時より父のきびしい薫陶下にあつた能楽においては、明治25年(1892年)、八幡社神納にて「翁付竹生島」を舞っており、また明治27年(1894年)夏以降数回上京して、喜多六平太師の指導を受けていた。

こうした諸事情のもとに、家元の懇望もだしがたく、遂に明治44年(1911年)9月、教職を辞して家芸に専念することになったが、父七太郎師の逝去は、それより17日後のことであつた。

寿太郎師がまず目ざしたのは、自家専用の能舞台である。

地元門弟の熱心な協力を得て、新馬場東に、本格的舞台が竣工したのは大正2年(1913年)12月。

人口わずか3万にも足りぬ地方小都市にとっては、驚くべきことであつた。

門下生は、福山・松永・三原・竹原・西条・笠岡・大阪・徳島などに及ぶ。

創作能「鞆浦」

つぎに寿太郎師と郷土との結びつきは、能楽「鞆浦」の創作・演能によって更に深まった。

まず前場では、前シテ老翁とツレ女人が鞆の浦の景勝の数々と、父景翁の敬神の様子を語って中入。

後場では、淀姫神が天女の舞を、祭神素盞鳴(すさのお)神が舞働(まいはたらき)を舞って国土泰平を祈る、夢幻能様式の協能であり、敬神崇祖・国運隆昌の祈りの中に、郷土の風光と歴史への賛美が色濃く表現されている。

大正6年(1917年)4月25日、亡父の7回忌に沼名前神社(ぬまくま・じんじゃ)能舞台で初演しその霊を慰んだ。

それより78年後の平成7年(1995年)10月7日、令孫大島政允師(職分国指定無形文化財)により再演された。

昭和4年(1929年)歿、享年59歳。

重なる演能。翁・猩猩乱・絵馬・道成寺・望月・正尊・隅田川。

大島寿太郎師の3男が、大島久見師。 (出典1)(出典2)

出典1:『備後先覚者名鑑(郷土を創った人々)』、6頁、備後文化出版社編刊、昭和35年6月

出典2:『誠之館同窓会報(第3号)』、16頁、「能楽連環 大島家の諸師」、森田雅一、福山誠之館同窓会編刊、1996年5月19日

2007年12月7日追加●2008年2月6日更新:本文●